

授業科目名・形態	在宅ケア実習 実習	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	石川セツ子・工藤智美・黒沢繭子	実務経験の有無	有	開講期	3年前期・後期

【授業の主題】

- 1) 在宅ケア論で学んだ知識・技術を看護実践の場面で、結びつけて理解できる実習とする。
- 2) 対象者・家族の意思決定を支援することの重要性を学ぶ実習とする。
- 3) チーム一員としての役割を学ぶ実習とする。
- 4) 保健・医療・福祉との連携、協働を通して、切れ目のない看護を学ぶ実習とする。
- 5) 多様な場で、様々な健康レベルの人々を対象とし、ケアマネジメントの実際（介護予防含）を学ぶ実習とする。

【到達目標】

- 1) 在宅で療養・生活している人々とその家族を支援する施設の組織と役割について理解できる。
- 2) 在宅で療養・生活している人々と、その家族の生活・健康の諸問題、療養・生活している人々および家族に対する支援活動の実際について理解できる。
- 3) 在宅看護の実際、継続看護について理解できる。
- 4) 在宅ケアマネジメントおよび社会資源の活用について理解できる。
- 5) 地域包括ケアシステムを基盤とした、多岐にわたる場で介護予防について学びを深めることができる。

【授業計画・内容】

- 1) 施設の組織と役割・事業概要
- 2) 在宅で療養・生活している人々と、その家族の生活状態・健康状態及び家族支援
- 3) 地域の社会資源・活用状況
- 4) 在宅看護と多職種連携および活動内容
- 5) 退院支援と退院調整及び担当者会議等への同行体験
- 6) 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問通所介護事業所、訪問介護事業所等の業務の役割と実際

※詳細は実習オリエンテーションにて提示する。

【授業実施方法】：①臨地実習 ②事前学習（課題学習のまとめ）③学内カンファレンスでの学習（反省と振り返り）

【授業準備】：訪問看護及び在宅ケアに関連するサービス、関係法規などの①事前学習ノートと②初日分の実習目標を記載した記録を、実習開始前の指定日時までに教員へ提出し内容を確認してもらう。

【主な関連する科目】在宅ケア論Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ

【教科書等】：石垣和子・上野まり編集 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして、南江堂、改定版（2020.3 版）

【参考文献】：令和4年版訪問看護業務の手引き等、必要時配布します。

【成績評価方法】：1) 実習中における実習指導者や教員による評価（実習中の姿勢や態度・行動等）や、日々の記録のコメント、反省会・カンファレンス等での発言・発表 50%。
2) 在宅ケア実習評価表（自己評価・教員評価）50%。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

- 1) 訪問看護の運営業務や、在宅ケアマネジメントの実務経験を活かし実習中の指導に当たる。
- 2) 実習での理解不足や疑問等について、理解が得られるよう振り返り学習をとおして、活発な意見交換ができるカンファレンスを定期的に実施する。

【学生へのメッセージ】

- 1) 在宅・施設サービスの実習となりますので、特に同行訪問による実習時には、個々の基本的なマナーをしっかり守りましょう。（事前オリエンテーション時に配布した資料を参考）
- 2) 在宅ケア実習の自己学習課題について、しっかり事前の学習をしてから各施設で実習しましょう。
- 3) 実習での学びをとおして、疑問や分からないこと等は、積極的に指導者や教員へ質問し理解を深めましょう。
- 4) 限られた実習期間ですので、主体性を持ち、やりがいと達成感のある実習を体験しましょう。